

米の需給状況について

令和8年7月28日

福島県水田農業産地づくり対策等推進会議

令和8年6月末時点における全国の民間在庫量は、過去最大の243万トンとなっており、適正な水準を大幅に上回っています。

また、本年産の主食用米の生産量は、国の需要見通しより21万トン多い732万トンと見込まれています。

営農計画書の提出後も、実需者等の契約相手方の同意を前提に、8月20日まで変更が可能ですので、主食用米から加工用米や新市場開拓用米等への転換を検討しましょう。

1 令和8年産主食用米の生産数量の目安について

令和8年産の主食用米の生産数量（面積）の目安については、生産基盤の状況等から、米の生産量を維持するため、現状の生産面積を維持する必要があるとともに、国が公表した「米穀の需給及び価格の安定に関する基本方針」における生産量の見通しや本県産米における需要量シェア等を考慮し、令和7年産の作付実績と同じ67,000 ha（備蓄米6,300haを含む）と設定しました。

2 水田における作付意向（6月末時点）

令和8年7月28日、国は6月末時点における令和8年産米の作付意向を公表しました。全国的には主食用米の面積がわずかに減少しているものの、概ね前年並みの見通しとなっています。

また、平均単収で生産量を試算すると732万トンとなり、政府が公表した需要見通し711万トンを21万トン上回っています。

本県における主食用米の作付面積は62,600 haと前年より減少する傾向となっていますが、備蓄米作付面積6,300haを含めると68,900 haになり、目安を1,900 ha上回る見込みとなっています。

○本県の水田における作付意向（6月末時点）

単位：千 ha

	主食用米	備蓄米	加工用米	新市場 開拓用米	飼料用米	WCS用稲	麦	大豆
令和7年産	67.0	0	0.9	0.1	1.4	0.9	0.4	0.8
令和8年産	62.6	6.3	0.3	0.3	0.6	0.7	0.4	0.7
対前年差	▲4.4	+6.3	▲0.6	+0.2	▲0.8	▲0.2	0.0	▲0.1

3 国の需給見通し及び民間在庫量について

「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針（令和8年7月28日）」によると、令和8年6月末の民間在庫量は243万トン、今年6月末時点の作付意向調査結果を踏まえた令和9年6月末の民間在庫量が263～281万トンとなり、適正水準とされる180万～200万トンを大幅に上回る見通しとなっています。

これまででも、在庫が過剰になると米価が大きく下落していますので、主食用米から、交付金活用により収入の見通しが立つ加工用米や新市場開拓用米等への転換を検討するなど、需要に応じた生産を実践してください。